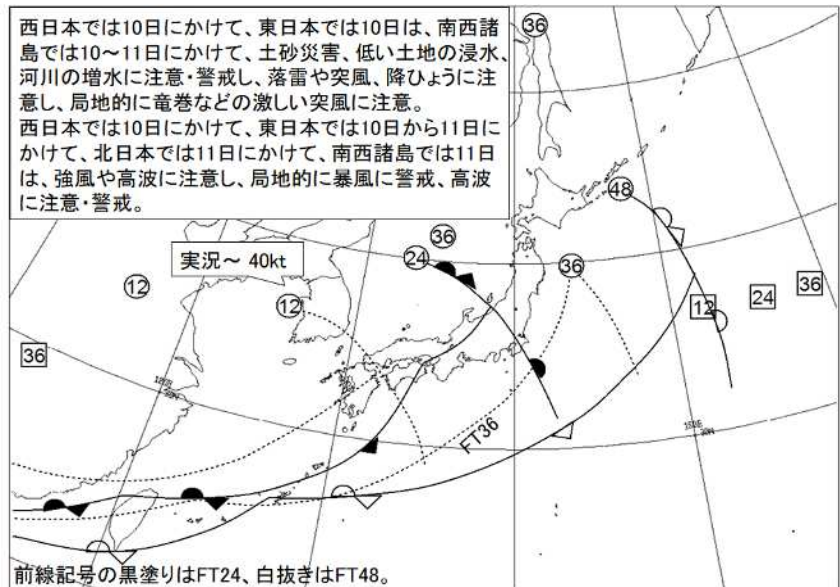


1. 実況上の着目点

① 500hPa 5640m付近のトラフに対応した前線を伴う低気圧は閉塞し、黄海を北東進。低気圧や前線に向かい暖湿気が流入し、9日9時の名瀬の高層観測では、850hPaで θ e343Kを観測。九州西方海上から九州地方にかけて、前線近傍で1時間約40mm以上の激しい雨を解析し、発雷を多数検知。

② 500hPa 5700～5820mのリッジに対応した日本の東の高気圧が東進。この高気圧と①の低気圧との間で気圧の傾きが急となり、西日本を中心に、やや強い風を観測し、局地的に15m/s以上の強い風を観測。

③ 衛星画像では、華北から華中付近に黄砂が見られる。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 黄海の低気圧は、10日朝にかけて閉塞しながら日本海へ進み、その後、低気圧は11日朝までに不明瞭となる。一方、閉塞点上に新たな低気圧が発生し10日夜から11日にかけて、三陸沖から千島近海に北上する。また、低気圧からのびる前線は、10日夜にかけて本州を通過し、南西諸島付近では前線が停滞する。前線や低気圧に向かい850hPa θ e345K以上の下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い非常に激しい雨が降る所がある。西日本では10日にかけて、東日本では10日は、南西諸島では10～11日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意し、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

② 日本の東の高気圧は、10日にかけて、日本のはるか東へ移動する。2項①の低気圧や前線と高気圧との間で気圧の傾きが急となる。また、南西諸島付近では、大陸から張り出す高気圧と前線との間で気圧の傾きが急となる。このため、非常に強い風や強い風が吹き、波が高くなり、しける所がある。西日本では10日にかけて、東日本では10日から11日にかけて、北日本では11日にかけて、南西諸島では11日は、強風や高波に注意し、局地的に暴風に警戒、高波に注意・警戒。

④ 南西諸島～東日本では11日にかけて、黄砂の飛来が予想されている。実況監視に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本とするが、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

① 雨量(18時からの24時間): 東海・近畿・四国・九州南部150、関東甲信120、九州北部・沖縄100mm。

② 波浪(明日まで): 北海道・東北・関東・北陸・中国・九州北部4、伊豆諸島・東海・近畿・四国・九州南部・奄美3m。

③ 高潮(明日まで): 北陸地方では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。